

第 8 期第 3 回神戸市立図書館協議会報告内容

日 時：令和 6 年 2 月 2 日（金）15 時～16 時 30 分

場 所：中央図書館 2 号館 4 階 研修室(1・2)

出席者：(委 員) 湯浅会長、桜間副会長、尾野委員、小野三恵委員、密山委員
(事務局) 中央図書館長、総務課長、総務課担当課長、利用サービス課長、
総務課係長 4 名、利用サービス課係長 2 名、総務課担当 1 名、
利用サービス課担当 1 名

傍聴者：3 名

議事次第

1 開会

2 報告

- (1) 前回協議会でのご意見に対する報告
 - ・自動音声読み上げ機能つき電子書籍のコンテンツ数
 - ・図書館ホームページ「電子図書館」ページの見直し
- (2) 令和 5 年度 主な取り組み報告
- (3) 令和 6 年度 主な取り組み
 - ・新館整備
 - ・震災 30 年行事

3 閉会

議事要旨

【報告会の開催】

出席委員が過半数に満たなかった為、報告会として開催することについて出席委員の同意を得、報告会としての開催を決定。

報告事項(1) 前回協議会でのご意見に対する報告

事務局

- ・自動音声読み上げ機能つき電子書籍のコンテンツ数について

神戸市電子図書館で現在利用できるコンテンツ数は現在 4,944、導入時の 2 倍。これに比例し、うち読み上げ機能付きコンテンツ数は導入時の 1.7 倍に増加。利用できるコンテンツ数における読み上げ機能付きコンテンツの割合は

49%。半数近くが読み上げ機能付きとなっている。因みに TRC-DL が持つ総コンテンツ数は 143,699 で、うち読み上げ機能付きコンテンツ数は 52,074、全体の 36%。

購入しているジャンルは、読み上げ機能に変換しやすいものとして写真や図表が多い物より文字中心のコンテンツが多くなる傾向がある。またスマホで閲覧できるため電子コンテンツとして活用しやすいと考えていた旅行書などは読み上げ機能コンテンツとしては数が少なく、選択肢としては選びにくい傾向にある。現在導入している TRC-DL は提供コンテンツが豊富なだけでなく、読書バリアフリー法にあわせて視覚障害を有する方を支援するタイプのテキスト版サイトを持っている。このサービスは読み上げソフトがあれば、通常の画面を読み上げるより簡単に検索や電子コンテンツの貸出が出来ることがメリットである。神戸市電子図書館の画面のテキスト版サイトへという所をクリックすると、読み上げに適したテキスト形式の画面に遷移し、本のタイトルが出てきて、画像が全て文字のみで表示される。これを読み上げる事でご利用が可能となる。

報告事項(1)

事務局

・図書館ホームページ「電子図書館」ページの見直しについて

前回協議会の際、ホームページから入るときに分かりにくいという意見があった。電子図書館だけでなく、他のメニューについても全体的にブラッシュアップし、アイコンをそろえた。電子図書館は黄色いイカリマークで、内容を分かりやすく（電子書籍サービス）と表示。電子図書館をクリックするとページが遷移するが、分かりにくかったので、ここですと強調したデザインにした。使い方の説明が分かりにくかったので、初めて利用する方は詳しい説明やページにいきなり遷移するのではなく、簡単ガイドをご覧くださいと用意をした。簡単ガイドについては、どういうものかということ、いつでも・どこでも・手間いらず・無料をまず表記した。実際の画面のここからログインし、利用 ID について文字ではなく、図や矢印で表示し、資料の貸出が 3 点、予約 3 点と強調して表示し、一目でどんなサービスかをイメージできるように作った。電子図書館本体の使い方は提供事業者の範囲の為、図書館の変更範囲外であるため、手前のところでできるだけ分かりやすいように今後も手をいれていく予定。

会長

電子図書館をただ開設したというだけでなく、実際に視覚障害を有する方、四肢障害を有する方がどのようにして見ていくのかという所まで踏み込んで、神戸市立図書館はだいぶ工夫をしたという事がよく分かる。かつ前回 8 月に協議会開催されたが、電子図書館について契約しているコンテンツ数のうち、どの程度音声読み上げできるかを尋ねたが、読み上げ可能なタイトル数が増えているという所が、協議会の意見をちゃんと汲んでいただいたと思う。現実が変わ

っていくことに意味がある。TRC—DLの全体のタイトルのうち、読み上げ機能付きコンテンツ数の占める割合よりも、神戸市の割合が多くなっているという所が図書館のやる気が見える。令和5年度の主な取り組み報告をお願いする。

報告事項(2) 令和5年度主な取り組み報告について

事務局

主なものをピックアップして説明する。

(中央)・大西寿男さん講演会。参加82名と多くの参加があった。活字文化に対する興味を皆さんお持ちいただいている事が分かるもの。申込開始半日で定員に達した人気の講演会であった。

・鈴木商店と神戸の歴史。鈴木商店を題材にした舞台公演があった。それに合わせ各部局と双日株式会社が連携して行事を行った。図書館としては、舞台公演場所に近いKIITO三宮図書館において関連書籍とパネル展示を行った。

・クラウドファンディングの実施により、総額925万7000の寄附をいただいた。寄附については児童書や児童コーナーの改修に活用させていただく。

(東灘)・学術企業アートに触れよう講演会。地域にある大学や施設、企業から講師を呼び開催した。

(灘)・王子動物園連携OUJIZOOコーナーでは、王子動物園との共同企画として、園の広報誌である「Habataki」という冊子を館内展示し見ていただいた。

(三宮)・ちきゅうパスポート原画展をウクライナの子供たち支援の一環として開催した。朝日、読売新聞に取り上げられ、マスコミにも注目された。

(兵庫)・「駄菓子屋のある図書館」というテーマ展示等を開催。本やガラスケース、パネル等を展示。本の福袋を用意した。

(北)・YA POP コンテスト「あなたの『推し本』教えてください」YA世代を対象にお勧めの本のPOPを募集し、展示。人気投票を行うPOPコンテストを開催。学校司書と連携し、毎年参加校が増えており、今後も伸びが期待できるものとなっている。

(北神)・「狂気山脈」パイロットフィルム上映会&まだら牛氏トークイベント42人参加。狂気山脈というゲームがあり、それをアニメ化して映画上映したもの。若者に人気のあるコンテンツ。図書館に今まで来なかった世代の方々にも来て頂き、見て頂けた。

・参加型展示「推して推してもっと推して」誰かの押し本を借りて、その上で自分の押し本を推薦する。連鎖していく構図になっている。

(新長田)・ボードゲームイベント。ゲームを学習に活用する塾の経営者と連携して行った。2回目には大学生・中学生の本好きが参加した。その場に置いてあるカードをめくり、書かれたお題にふさわしい文章を各自持参した本から

探して発表するというもの。

(須磨)・「すまぼう」うろおぼえコンテスト。須磨のマスコットキャラクターすまぼうをうろ覚えで書いたイラストの作品のコンテスト。主に若い世代をターゲットにしたもの。

(名谷)・図書館えんにち in 名谷ふれあいまつり。204 人参加。かなり広い駅前広場で開催。

(垂水)・「もう一度！お名前プレゼント♪」親子 5 組 6 名参加。色紙に親御さんの手形、子どもさんの手形をスタンプし、子どもの名前であいうえお作文を作ってもらった。記念に残っていい物となった。

・「笑犬楼・筒井康隆と『ジャズ大名』の世界」60 冊の本を置いた。神戸文化ホール会館 50 周年記念講演「ジャズ大名」との連携。その後、中央、三宮図書館でも実施した。

(西)・開館記念「目の健康」セミナー。57 人参加。図書館 1 周年イベントとして開催。アンケートでも非常に好評だった。

・「図書館ツアー」新しい図書館なので、知ってもらいたいということで、そういう方々のためにツアーを開催した。参加者の満足度も高かった。

【報告事項 1・2 に関する質疑応答】 (以下敬称略)

- | | |
|-----|--|
| 会長 | 前回協議会での意見に対する報告、5 年度の主な取り組み報告でした。この 1 と 2 の報告について、質問や意見をどうぞ。 |
| 委員 | 早速取り組んで改善して頂いて感激している。電子図書書籍の購入予算と紙媒体の購入予算は混ざっているのか別途か。 |
| 事務局 | 混ざっている。 |
| 委員 | 電子書籍は値段が高いと聞いている。充実するのはうれしいし、充実の仕方も急こう配で上がっており、図書館の意気込みがよく分かる。児童書の絵本を電子化するのは、素人が考えても手間がかかり、読み上げ機能を付けると、機械が読むので読み間違いや、句読点の場所を間違えなど、メディアとしては過渡期だと思う。それに予算が取られるのは矛盾を感じる。コンテンツは増やしてほしいが、子供さんの利用に関しては従来の利用もあまり変わらない。電子書籍は調べものに関しては威力を発揮する。今の子供たちは 1 人 1 台の端末を貰い、3 年生位で乗り換え案内とかを駆使して、全国を旅している。端末が手元にあり、誰の制限も監視もなく使えるところで、電子媒体を使った冒険が出来ている。その子たちに先生は乗換案内で見ただけでなく、実際の時刻表を持ってこられ、本当にあっているか確認するという事をしており、素晴らしい事だと思った。孫もちび鉄なので、時刻表をプレゼントしており、3 年生でこんなことが出来ると教えたら、特に勧めたわけではないのに、機械操作が珍しいというのでゲーム時間が全くなくなり、時刻表と比べるのに時間が奪われており、思わぬ成果だ。電子媒体 |

に早急に向かわなければならないジャンルと、そうでないジャンルのすみわけが特に児童書に対しては必要だという感想を持った。

会長 事務局の方で今の意見に対して、予算面、今後どのようにしていくのか。
事務局 資料費の中で電子図書をどの位の割合で買うかを考えせざるを得ない。電子図書を買えば買う程、紙の図書を減らさざるを得ない事になるが、先程説明したクラウドファンディングを今年始めた。児童のための本を買いたいのでご寄附下さいと 300 万という目標で始めたが、900 万も集まってびっくりしている。電子図書も増やし、紙媒体の本を増やしたいのでクラウドファンディングを使うというのを今やっているところだ。私も小さい頃は時刻表も見て、楽しい旅をしていたが、今の子はパソコンがあり、もっと色々な所に行けて、映像も見られるので、電子図書を買うときは特に YA 世代に響くような物も準備していかないといけないと思う。

委員 委員の話の中で、デジタル絵本は音声読み上げが出来ないという話が出たが、従来の紙媒体の絵本の場合、弱視の子供たちが、なかなか絵本が読めない。そこで点字シールを貼って、晴眼者も眼に障害のある方も一緒に読める。今日では機械による自動音声読み上げだけでなく、ナレーション機能という吹き込み読み上げという事も行われている。実際に東日本大震災や能登半島地震などあるたびに、子供たちに絵本をどういうふうに読むかという時に、iPad であればナレーション機能で読むことができるとか、自動音声読み上げとはまた別の、いわゆる TRC-DL というのを神戸市の図書館はいれているが、『どうぞのいす』とか子供向けの本で読み上げするものは結構有るか。

事務局 児童書物語として読み上げ機能付きコンテンツは 244 ある。

委員 そういう状況であるということに触れておく。委員の言うようにジャンルごとにどういう風になっているのか、色々議論を深めていくというのは重要な事だ。

委員 各図書館の取り組みについての意見だが、北神の行事で 8/20 の子どもフェスタ 148 人、11/4 は 386 人と、この人数がずば抜けて多く、楽しいイベントだろうと思った。名谷の 11/4 大丸と連携して 204 人というのは場所がいいのだろうと思った。一か月通して何百人ではなく、一日でこれだけの人が参加しているということと、西図書館の 10/29 も約 70 人、9/30 も約 130 人、これも人数が多く、人気のあるイベントだと思った。

事務局 8/20 北神の子どもフェスタ 2023 だが、神戸市立森林植物園主催の行事で、図書館の職員がワークショップという形のお話し会で参加をした。沢山の方に来ていただいたと思う。北神の秋祭りだが、こちらは図書館の主催行事だが、ショッピングセンターに図書館が入っているが、そちらに入っているテナントや外郭団体が協力して集まり色々な行事をした。

事務局 図書館は受付で構えていて、来て貰う人の相手をして本を借りて頂くというの

が基本だが、最近は図書館に来てもらいたいので、図書館から出ようということで、先程申し上げた複合施設だったら複合施設のお祭りに出て行ったり、森林植物園に本を持参して出ていったり、外に出る事業も行っている。また、乳幼児健診の三歳児健診の時の健診会場に行き、検診会場に行くとお母さん疲れているが、その中で読み聞かせをしてホッとしてもらうなど、どんどん外に出る事によって、沢山の人と出会えるという事がある。

委員 今仰った事、非常にその通りと思った。今まで図書館は非常にいい催しやっているけれども、参加人数が少なくて残念な気持ちだったが、かなり参加者が多くて、連携する形が増えているというのが、図書館も開かれた場になっており、非常にいい傾向と思った。連携をさらに進めていただければと思う。クラウドファンディングも非常に多く、数字の桁を間違えたかなと思ったぐらいだが、何か要因は。また中央図書館の事業で陳舜臣さんの催しがあるが、文学館でも陳舜臣さんの催しをやっており、連携などはどうか。

事務局 クラウドファンディングに多くの寄附を頂いた要因だが、広報にかなり力を入れた。市立図書館のトップページや OPAC という蔵書検索システム、非常にアクセス数が多くて月間 10 万以上の方がご覧になるところだが、そういうところに市立図書館クラウドファンディングをやっているという事と、児童書という事を強く PR し、結果的に神戸新聞に記事を取り上げて頂いたという事があった。これはたまたまだが、ふるさと納税を活用したクラウドファンディング事業ということで、ちょうど実施した日が今年の 8 月～11 月にかけてだったが、10 月にふるさと納税の制度変更が全国的にあり、駆け込みで沢山ふるさと納税をしたいという方がおられ、そういう需要などもあり、目標の 3 倍となるご寄附を頂いたと思う。

事務局 陳舜臣展だが、今年生誕 100 年ということで、神戸の色々な施設が皆で盛り上げたらいいのではないかという話があり、神戸文学館と神戸華僑歴史文化博物館の方でもされていて、図書館でも行おうと参加した形だ。文学館とは特に直接打ち合わせなどは行ってないが、文学館で行われているチラシやポスターを掲示している。文学館は陳さんのミステリーの中にシャーロックホームズのようないつも出てくる探偵がいるが、その人を取り上げた面白い企画をしていた。神戸華僑歴史文化博物館で研究をされている橘雄三さんという方からは図書館の展示のアイデアや、陳さんの新聞連載の情報をいただいた。今の時期、各所で陳舜臣展を行っているという状況だ。皆さんお帰りの時に 1 階の雑誌コーナーへの展示と 2 階のふるさと文庫で展示をしているのでご覧いただきたい。

委員 こどもの本の関係の方の間で、神戸市立中央図書館の HP のクラウドファンディングが話題になっていたか。

委員 知り合いがそういう事で役立てて貰えるならと参加したと聞いた。図書館ホー

ホームページは個人でも必ずアクセスする位なので、ものすごく宣伝効果がある。私は図書館員だった時、資料費が限られた時期があり、一枠設けてバナーを売ったらどうかと思った。子どもの読書活動の推進に関する法律ができた時、貸出数が急に伸びて、棚がガラガラになった時に、資料費は急激に伸ばせないのも、ホームページに空き地をたくさん作っていくらかで売るという事ができないものかと提案したぐらいだ。それ位の人がアクセスして、画面をご覧になるのはすごい事だと思う。話は変わるが、今回ホームページ画面を見やすくされたというのは、沢山の方が声にはならなくても喜んでいると思う。

委員 TRC-DL の割合より神戸市の方が読み上げコンテンツの割合が伸びているというのはすごい事だと思った。広報紙にも図書館の記事が載っていたり、神戸市の皆さんが興味を持っていると感じている。図書館も新しくなり、電子図書も皆さん使ったりするので購入に力を入れるのは良いなと思った。すみわけをしっかりとしていけたら、予算の事についても無駄じゃないと感じた。クラウドファンディングに関しても、なぜこんなに集まったのかと思った。ふるさと納税で蔵書の所で神戸市も頑張っているのも、応援したいと思った方も多いのかなと改めて感じた。資料5のところでもSDGsとか終活とか、興味を持っているような内容なので、皆さんいらっしゃったのかなと。終活とか参加してみたかったと思った。改めてXとかも確認してみたいと思った。

会長 一通り皆さん意見を頂いた。図書館がしていることに対して非常に好意的で批判的意見がほとんどない。引き続き3番の令和6年度の主な取り組みについて事務局から説明をお願いします。

報告事項(3) 令和6年度の主な取り組み<新館整備状況について>

事務局

- ・垂水図書館だが、いよいよ工事が始まる。令和6年2月に着工、その後令和7年5月に工事完了、令和7年7月頃開館予定ということで整備を進める。2階は一般書コーナー、3階は児童書コーナー、スタディールーム、学習室、4階はセミナー室と周囲に屋上広場となる。
- ・北図書館だが、令和5年に設計、工事業者の入札、令和6年2月に建築業者が決定、令和6～7年にかけて建築工事、令和7年度中に工事完了予定。近代的な景観、2階部分のワンフロアの図書館となる。
- ・三宮図書館だが、令和6年～内装等設計、令和9年12月工事完了予定。9～10階に情報のゲートウェイとして、屋上庭園と一体となった美しく快適な図書館を整備する。ICT技術の活用や文化・芸術ホール、商業施設・バスターミナル機能との連携により利便性を向上する。

会長 続いて震災30年行事の説明をお願いします。

報告事項(3) 令和6年度の主な取り組み<震災30年行事について>

事務局 2025年1月17日で震災から30年を迎える。30年に向けて全市で色々な行事

が行われる予定だが、図書館でもこれまでの取り組みをより一層発信していこうとしている。実施時期は2025年1月前後で、1階ロビーで防災展示を国立防災科学技術研究所、神戸市危機管理室の3者で行う予定。今年の1月もこの連携展示を行ったが、その第2弾となる。今年の展示は最後の資料のとおり、2024年1月防災展示「地震にそなえよう？」を行った。2023年に災害対応力の向上を目指す包括連携協定を結んだことで提携事業の一環として行った。国立防災科学技術研究所の専門員の作ったパネル、神戸市危機管理室の防災パネル、図書館の震災資料を展示した。1月1日に能登半島地震が起こったこともあり、足を止める方も多く、関心の高さが伺えた。

震災30年行事は、これまでも阪神淡路大震災関連の取組を続けてきたが、大きく分けて3つの取り組みとなる。

①1.17 文庫では、収集した震災関連資料を2階のふるさと文庫内に配架して閲覧できるようにしている。現在約4000タイトルの関連資料を所蔵している。

②震災関連資料室では、2号館3階に開設し、ビジュアル的に伝える資料や、パネル展示をし、節目ごとに入替を行ってきた。

③1階ロビーでは、関連展示や行事を開催してきた。震災から10年目までは毎年展示を行い、10年目にはシンポジウムを行い、震災関連資料室も10年目20年目といった節目の年にリニューアルを行い、25年目の2020年には防災対策をテーマに展示を行った。最後に資料には地域館の近年の取り組みをピックアップして掲載している。地域館も活発に震災関連展示を随時行っている。日頃から地域との繋がりも強く、それを生かした色々なイベントを行っているが、30年に向けて地域館でも色々やってもらいたいと思う。

【報告事項3に対する質疑応答】

会長 6年度の主な取り組みの中の新館整備について、意見、質問をお願いする。新館ラッシュといってもよく、神戸市が新しい図書館の建設に邁進しており、時代環境の中で図書館の存在意義を神戸市も強く感じているのではないかと思う。

委員 地元説明会での地元の方の反応はどの様な感じか。皆さん楽しみな方が多いのか。

事務局 垂水図書館の説明会を行ったが、今まで駐車場があった場所に新しく建つということで、そういう意味での心配、鳩がたくさん来るのではないか、図書館で行事などを行って騒がしくなるのではないかという声もあったが、基本的には楽しみにしているという声を沢山いただいた。

北図書館は、文化センターと同じ施設内に入るが、図書館よりも文化センターについて関心があるという雰囲気であったが、今の北図書館は狭く、2フロアでバリアフリーに対応していないため、そういった意味で良い図書館が出来るということを楽しみな方が多い。

会長
委員
意見や質問をお願いしたい。
垂水だが居心地のいい滞在型図書館ということで、それは非常によいが、同じ人がずっといると困るのではないか？同じ人が居座って動かなかったらどうなのかという心配はないか。座席数が増えるというのはかなり増え、座れない人が出るというのは考えにくいのか。

事務局
今の垂水図書館がかなり狭く、ゆったり本を見たい人が座れる場所がない状況。そういう意味でも余裕をもって席数を提供する予定。最近の図書館の流れとして、滞在型図書館として席もひろく取り、場所的にもゆったりとした図書館を目指している。

事務局
2時間使えるという予約システムを入れる予定であり、座席を予約すれば必ず座れる。今の垂水は68席しかないが、300席位となるので、かなり席数も増え、また4階には屋上広場があり、ゆったりして頂けると思う。付け加えると単体の図書館としては垂水が初めてであり、図面に表れていないが、地下に図書館の付置義務ということで59台の駐輪場と、図書館とは別の部署の管理であるが、原付の駐車場もある。また1階がロータリーとなっており、障害者用も含めて3台の駐車場を考えている。

委員
三宮図書館だが駅前では便利な場所なので、開館時間の延長とか夜間開館とか考えているか。

事務局
要望としてはきつとあると思うが、開館まではまだ日がある。例えば今はやりの朝活等をしようとする朝早くの開館となるが、他の施設との兼ね合いや、実際開館時間延長となると費用にも影響があるので、色々考えながらの今後の検討となる。今現在はKIITOで平日は朝10時～21時日曜が10時～18時、他の地域図書館は平日20時までのところ、三宮にあるということで平日21時まで長く開館している。

事務局
委員が仰るように、場所が一等地なので忙しいビジネスマンの人が多く、子育て世代の人やビジネスマンが利用しやすい場所になると思うので、工夫して考えいく。時間延長はなかなか難しいが、来ていただいた時にどう見せるかというのも、一生懸命考えていきたい。

委員
庭園はかなり遅い時間まで使えるのか。

事務局
そうなると思う。

会長
他に新しい図書館に対して質問、意見はないか。それでは震災30年行事にうつりたい。委員の皆さん質問、意見をお願いする。今年地震は思いもよらず、どこで起こっても不思議ではないが、能登での地震の報道が毎日のように繰り返されている。神戸はそういう意味では様々な体験をしており、図書館の蓄積もあると思う。意見、要望をお願いする。

委員
今回の地震で公共図書館の被害というのは出たか。

- 事務局 全体像の把握はしてないが、数か月前に富山と石川の図書館に行き、富山の図書館と繋がりができ、富山の図書館に伺うと、本が大量に落ちた。幸い開館時間ではなかったので人的被害はなく、建物の被害もそれほど困った事ではなかったが、1月17日ようやく開館ができたと聞いている。珠洲市の図書館は、現在避難所の物資を置くような場所になっていると聞いている。輪島その他については情報収集していない。
- 委員 被災して図書館同士で支援というのはあるか。
- 事務局 阪神淡路大震災の時には、全国の図書館を通じて大量の本の寄附があった。当時、避難所が市域に沢山あり、避難所生活も長期化し、なかなか楽しみもないので、全避難所ではなかったが、いただいた本をパッキングして持って行き、支援いただいた事をそういう形で返したが、直接応援に行くというのはまた違うレベルかなと思っている。
- 事務局 地震発生してから、水道が止まっていたり、道路が陥没していたりという状況で、その中で、今日から出勤しているが図書館員も1名、広報班として珠洲市のホームページを作成したりというお手伝いをした。珠洲市は区役所として広報担当が1名しかいないため応援として1週間行った。図書館としてできるのは今のところ図書館同士ではなく、人的な支援をしている。あともう1つできるのは、聞いた話によると能登半島が大変だが、石川県立図書館はまだましなので、近隣の大丈夫な図書館で図書カードを発行し、被災された方に本をお貸しするのでお越しくささいと対応している。神戸市も、神戸に避難されている方に本をお貸しする等検討したい。
- 委員 地震に関しては、地震を知らない子供たちもいるので、そういった方に伝えていくために、パネル展示も重要だと思う。南海トラフと言われている中、防災の意識を中心に、未然に大きな被害を防ぐための取り組みに力を入れていく必要がある。図書館が注目されている神戸市では、発信力があると思うので、中心になってやって貰えればと改めて感じた。
- 委員 図書館の電子図書館の中の独自資料で、防災ハンドブック、危機管理ハンドブックなどはどれくらいあるか。
- 事務局 独自資料の中には、神戸市が発行したものとしては、建設局が発行した阪神淡路の資料が2種類程度となる。
- 委員 今在住の人たちに向けての、例えば1人で下宿しているとか、定住外国人とか、そういう人たちが資料としてすぐにでも役立つような防災ハンドブックのようなものが独自資料としてあるとか、多言語対応しているとか、音声読み上げ対応しているとかそういった事があれば便利だと思う。どのくらい各自治体の図書館で作成しているのか、よく実態を知らないが、神戸市は実際に阪神淡路大震災を経験しているので、神戸大学の震災文庫などに多く資料があると思うが、多す

ぎると発見しづらいので、簡便な方法で提供できるものがあれば良いと思う。先程の図書館のホームページが非常に見やすくなっているのと同じで、独自資料というのを電子図書館に入って探していくのは大変なので、分かりやすい所にあるといいと思う。

委員 批判ではないが、『地震にそなえとう？』というのは神戸弁か。この発音がよく分からない。神戸以外の人が見てどう思うのかと、軽いのか重いのか、神戸弁なのかと感じた。正確な発音を教えて欲しい。

事務局 しつとう、やつとう これは神戸弁、大阪の人とかは言わない

委員 分かりにくい事を分かりやすくしようとすると、同時通訳みたいに、あなたは地震に備えていますか？と逐次訳を後ろにつけても面白い気がする。片方で方言を批判されているが、コミュニケーションを図るためにその人じゃないのに方言を使ってふりをする。『そなえとう？』はあえて神戸の人じゃないのにというようなケースがあるかもしれない。いずれにしても広報するときの思想の問題だ。

事務局 毎年1月に「そなえとう？」と坊やがリュックを背負った広報紙が全戸配布されているので、「そなえとう？」というのが身近に感じるということでその言葉がベーシックになっている。合言葉にしようという位の気持ちで神戸市の危機管理室が行っていると思う。危機管理室は本庁の4号館にあり、防災展示を常備しているが、「そなえとう」と表示してあり、ローマ字に表記したりもしている。神戸市民に対しての親しみやすさで「そなえとう？」だが、よそからもたくさん来ているので、「そなえとう」ではあまり響かないかもしれないので、工夫する必要があると思う。

委員 外国の人がどう思うかということもある。

委員 移動する社会なので必ずしもずっと住んでないので、『そなえとう』をひらがなで書かれると親しみを込めて書いているという感じはわかるが、実際分かりにくい。兵庫県下や長田区などは、在日韓国人や朝鮮人だけでなく、ベトナムやフィリピンの人など増えてきているので、その時にこれはこれで出して、浜松市がやっているように多言語バージョンのチラシを七か国語位で作るのが必要かもしれないが対応できるか。

事務局 確認しないといけないが、多言語バージョンのチラシは危機管理室の方で作っていると思うので、それを図書館で広報することで協力していく。

委員 浜松市などはポルトガル語やタガログ語とかベトナム簿とか全部翻訳しており、図書館に備え付けてチラシを置いている。

委員 「そなえとう？」はキャッチコピーだと思う。北神図書館の参加型展示の「推して推してもっと推して」で若い人が沢山参加したというのは、「お勧め本」という展示タイトルではなかったからだと思う。学校でボランティアをしていると、

知っとう知っとう、知らんわと日常的にしゃべっている子供たちがおり、外国人講師の先生が英語を教えに来ているが皆関西弁だ。地域の人がどういう国籍だろうと、地域に住んだ時に地域の言葉でコミュニケーションを図るのは第一歩だと思う。私はそなえとうと聞いた時にうまいこと使っていると思った。『あなたは備えていますか』と本が並んでいたら、手が出しにくい。知っとう？だから知らんわ、見てみようとなる。防災とかは知らなければならないことだが、知りたくないとか思い出したくないという人も多い。そういう意味では、どういうキャッチコピーを付けて敷居を低くするかというのが課題で、私はうまくやったと思った立場だ。色々な人が来られるので、様々なことを試してみるが、地域の図書館は地域に寄り添った表現というのが先ず第一歩だと思う。県立や国の単位になってくるとまた違うが。

委員 知っとうというのはよく聞かすが、そなえとうという言葉は聞いたことがない。
委員 余談だが、映画タイタニックで、船が沈没するので皆必死になっているとき、長い廊下を子連れで歩きながら、廊下を書いてある言葉を辞書で引いているシーンがある。今、地震が起こったら辞書で引いている場合じゃない。それはやはり図書館でもいえることで、サイン計画の中に様々な言語で対応する必要があると思うが、例えば神戸の場合は実際 100 か国位の出身の定住外国人が 1 万人位いて、国の数が多い。QR コードを付けてかざしたらその言語が出るくらいでないと、全部の言語を表示すると大変なことになる。まだ意見ある方は願います。

委員 今朝 NHK で見たが、作者の川久保静華さんの『だいじょーぶのほん』が取り上げられ、絵本で伝える無理をしなくていいよという本だが、購入しているか。子供がつかったが救われた。今悩んでいる子供たちが、人と違うのがそんなのは大丈夫だよという事を絵本で伝えている良い絵本だ。

会長 非常に個別の話だが、今スマホで図書館にあるか調べている。

事務局 現時点ないようだ。

会長 それでは他に意見等なければ、今日の報告会の進行を事務局にお返ししたい。

事務局 会長に今日のチラシのお話をお願いしたい。

会長 前回協議会のやり取り事項の報告のまさに自動音声読み上げ機能付き電子書籍や電子図書館の事について、二種類配布資料をお持ちした。1つは読売新聞の一面記事。8月に協議会があったが、9月28日の日付の物で、私が所属している追手門学院大学が出ている。オンライン上に開設された電子図書館が、視覚障害者が音声読み上げ機能を使って読むことができる。大学図書館こそ電子化を進め、誰もが教育を受けられるよう門戸を開いていかなければいけない。これはいわゆる電子書籍の音声読み上げをして、視覚障害のある人も教科書がデジタル化されていて、ちゃんと聞くことができるようにして、受け入れていこうと、そ

ういう流れを今作っている。教員から教材が電子書籍でなく、紙でないと絶対にダメだといわれると、学生が学べないということなので、これを対応していこうというプロジェクトを今行っている。電子書籍を作るという一例が出ているので参考にお持ちした。

もう一つの方は私が書いた本が3月に新刊で出るが、次世代に向けた電子図書館の可能性という本を書いた。神戸市の図書館の事も出てくる。原稿の校正をしているところだ。この中に新館ラッシュの事、電子図書館の自動音声読み上げ機能の事や検索機能の事について書いているので参考になると思い紹介した。それでは事務局の方に進行をお返しする。

事務局

貴重なご意見ありがとうございました。内容については事務局の方でまとめ、各委員のみなさまへさせていただきます。次回は夏ごろの開催を予定している。本日はどうもありがとうございました。